

実践のまとめ（第2学年 国語科）

新発田市立東中学校 教諭 五十嵐 美波

1 研究テーマ

**学んだことが繋がる、生かせる生徒の育成
～系統性を意識した国語授業を通して～**

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

中学校学習指導要領(平成29年度告示)では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指している。

- (1) 社会生活について必要な国語について、その特質を理解して適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

また、中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説には、「国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としている。」とあることから、学習内容を定着させるためには、生徒自身が既習事項を想起し、新しく学んだことと繋げたり活用したりしながら学習を進めていく必要があると考える。

これまでの授業を振り返ると、単元ごとの目標や育みたい資質・能力を明確化し、生徒と共有することは出来ていたが、単元同士の繋がりを意識する機会や、生徒が既習事項を自ら振り返りながら課題解決に向かう学習活動を設定する機会が少なかった。また、年間指導計画を十分に練り込むことが出来ていなかった。そのため、単元内での目標は達成されているものの、学習内容の定着や汎化が不十分で、学んだことを別の単元の内容に結び付けられないという姿が見られた。

そこで、生徒の目指す姿を明確にし、各単元の繋がりの重点を捉え直すことで、自分の授業の課題である系統性の弱さを克服したいと思い、本テーマを設定した。既習事項や、これまで経験してきた学びの手法を生徒自身が自分の言葉で再構築し、それらを活用して課題解決することで、達成感や主体的に文学的作品を読み深める良さを味わわせながら読みの力の定着を図りたい。

(2) 研究テーマに迫るために

① スタディ・ログの活用

タブレット型端末を活用し、単元の振り返りやパフォーマンス課題、作品の感想等をスタディ・ログとして蓄積する。蓄積したスタディ・ログをまとめ直し、それらを活用して課題解決に向かう学習を通して、学んだ内容の有用性や、繋がりを感じることができると考える。スタディ・ログを随時振り返りながら学習を進めていくことで、学習を通して自分の考えが広がったり深まったりしたことを生徒自身に実感させたい。

また、生徒が自己調整しながら課題解決に向かうためには、教師が生徒の学習状況を

把握し、適切に支援を行う必要がある。本単元では、生徒が毎時間提出する振り返りにコメントを付けたり、全体で共有したりすることで、学習の価値付けや助言を行っていく。

② 学び合うスキルの育成

教師主導ではなく、生徒自身が必要性を感じたときや、仲間の意見を聞いてみたいと思ったときに、主体的な学び合いが成立すると考える。そのため、学び合いを課題解決のための手段と位置づけ、学び合う内容や進め方について生徒自身が自己決定できるようにしていきたい。以下の6点について継続的に指導を行うことで、学び合うスキルの育成を図り、生徒一人一人の学び合いの充実を目指す。併せて、小集団の中で学び合いを主導するリーダーを育成し、主体的に学習を進めることができる集団を育てていきたい。

- 1 相手に目線と関心を向けて聴く。相手に目線と関心を向けて話す。
- 2 仲間の話に拍手・うなずき・相づちなどのリアクションをする。
- 3 全員が参加する。参加しようとする態度を示す。
- 4 つぶやき・納得・実感のある学び合いにする。
- 5 本文に基づいて語り合う。
- 6 与えられた時間全てを有効に使い切る。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ①－1 「初読の感想」とパフォーマンス課題の「批評文」を比較したときに、スタディ・ログの内容を基にした具体的な記述をしている。
- ①－2 授業後のアンケートで、「スタディ・ログを振り返り、今まで身に付けてきた読みの力を使って課題に取り組んだ」と答える生徒が90%以上になる。
- ②－1 授業中、学習に苦手意識をもつ生徒が学び合う中で自分の意見や疑問を述べ、考えを深めようとしている。
- ②－2 授業後のアンケートで、「学び合いを通して自分の考えを広げたり深めたりできた」と答える生徒が90%以上になる。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

走れメロス（現代の国語2 三省堂）

(2) 単元（題材）の目標

- ・本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。 【知識及び技能(3)エ】
- ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等C(1)オ】
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。C(1)オ	・今までの学習を生かして、自分で取り組み方を決めながら主体的に作品を読み深め、作品の魅力に気付こうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画(全12時間、本時8/11時間)

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準口と方法
1 (1)	・スタディ・ログの整理	◎今までのスタディ・ログを振り返り、「わたしの国語学習の技」に整理する。	態度 文学的文章の読み方に関する既習内容や、考え方、取り組み方を自分なりにまとめ直している。 【行動観察】【ワークシート】
2 (1)	・作品の通読	◎教科書に書き込みをしながら「走れメロス」を通読し、初読の感想を書く。	態度 自分なりの考えや、疑問、注目した点を初読の感想に書いている。 【行動観察】【ロイロノート】
3 (1)	・基本的な設定の確認	◎基本的な設定や語り手の視点、文章の構造について確認する。	知・技 作品の基本的な設定や語り手の視点、文章の構造について理解している。 【ノート】【振り返りの記述】
4 (2)	・追究課題の設定	◎教科書の書き込みや前時までの振り返りを基に、学習を通して追究したい課題を考える。 ◎出てきた課題を精選する。 ◎追究したい課題を設定する。	態度 作品を読んで抱いた疑問を基に追究課題を設定している。 【行動観察】【振り返りの記述】
5 (2)	・課題の追究①	◎1次で作った「わたしの国語学習の技」を参考にしながら、自分なりの方法で課題を追究する。 ◎考えたことや今自分が疑問に思っていることをペアで共有する。 ◎振り返りを書く。	態度 追究課題に対して、自分なりの方法で課題解決に取り組んでいる。 【行動観察】 思・判・表 追究課題に対して、教科書の記述を基に自分の考えをもち、まとめている。 【振り返りの記述】
6 (2)	・課題の追究②	◎それぞれ追究課題についてグループで協議し、考えを深める。 ◎グループで協議した内容を基に個人で再度自分の考えを検討する。 ◎振り返りを書く。	態度 グループ活動を通して自分の考えを深めようとしている。 【行動観察】【振り返りの記述】
7 (2)	・批評文の記述	◎作品の魅力を伝える批評文を書く。	思・判・表 これまでの学習を基に、作品の魅力を考え、批評文で表現している。 【批評文】

		◎グループで批評文を読み合い、互いの批評文を評価する。	
8 (1)	・単元の振り返り	◎初読の感想や授業中の振り返りと自分の書いた批評文を比較し、どのように変化したかを分析する。 ◎単元の振り返りを書く。	態度 授業を通した考えの広がりや深まりを捉え、学習の成果や取組を振り返ろうとしている。【行動観察】 【振り返りの記述】

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元は2学年における文学的文章の総まとめと言える文章であり、多様な解釈や考えを引き出すことができる作品である。これまでの文学的文章で学んだ知識や学習の技法を生かして作品を読むことで、表層的な内容の理解にとどまらず、多角的な視点で作品を読み深めることができる考える。

また、生徒たちは1年生の頃に、「少年の日の思い出」（現代の国語1 三省堂）において、スタディ・ログを活用した課題解決学習を行い、自分の考えを批評文で表現する学習を経験している。過去の学習の振り返りや批評文と、本単元の振り返りや批評文を見比べさせ、学習を通した読む力の成長や、考えの広がりや深まりについて、生徒自身に自覚させたい。

(2) 生徒の実態

疑問や感想、自分なりの考えをもって文章を読むことができる生徒が多い。一方、NRTでは、中領域「考えや感想をまとめ伝え合う」の項目が全国平均に対して低い。また、グループ活動では、自信のなさから発言することができなかつたり、特定の生徒としか関わることができなかつたりする様子も見られる。このことから、自分なりの考えをもっているが、それを言語化して他者に伝えることに課題があると考えられる。そのため、授業では個で考える時間を確保したり、思考ツールを活用して自分の考えを表したりする場面を設定してきた。また、ペアやグループなど、多様な形態で学習する経験を積んできた。

本単元では、生徒がスタディ・ログを振り返り、これまでの学習の中から有効だと考える思考ツールや読み方を自分自身で選択して学習する。自分の設定した課題に向かって、取り組み方を自己決定しながら学習を進めていく過程を通して、主体的に文章を読み味わおうとする態度を養い、自信を付けさせたい。また、学習の中で他者と協働して課題を解決する場面を設定し、他者と考えを伝え合う良さや楽しさを味わわせたい。

5 本時の展開

(1) ねらい

- ・グループ協議を通して課題を追究し、自分の考えを広げたり深めたりして、作品の魅力に迫る。

(2) 展開の構想

- ① グループでの学び合いを通して、新たな視点を得たり考えが深まったりするように、グループ協議の進め方を指導する。
- ② 生徒が自己調整しながら課題を追究し、作品を読み深めることができるように、スタディ・ログの活用を促す。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 8分	○自分や仲間の振り返りを読み、学習の進め方を確認する。	◎ロイロノートの回答共有機能を使い、前時の振り返りを提示する。 ◎学習の進め方を示す。	◇仲間の考えや取り組み方を参考にするよう指導する。
	課題 グループ協議を通して自分の考えを広げたり深めたりして、作品の魅力に迫ろう。		
展開 (1) 24分	○4人グループで協議し、一人一人の追究課題について考える。 【12分×2人】	◎司会の生徒を中心に進行させる。 ・まずは、△△さんの課題について話し合おう。課題について皆で話し合いたいことはある？ ・「メロスは何のために走ったのか」について考えたよ。……と思っているんだけど、他のアイディアはある？ ・私も△△さんと同じ課題を考えていたよ。私は心情曲線を使ってみたんだけど、△△さんはどうやって考えてみたの？	○与えられた時間を全て使って話し合うことを確認する。 態度 グループ協議を通して課題を追究し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。【行動観察】 ◇各グループの進行状況について把握する。停滞しているグループがあれば、進行が上手くいっているグループのやり方を見に行かせる。
展開 (2) 10分	○グループで協議した内容を基に、再度自分の考えを検討する。	◎グループ協議の内容を基に、再度それぞれのやり方で作品を読み直すことを促す。 ・△△さんは……と言っていたけど、本当かな。読み直してみよう。 ・グループで話題に出た心情曲線を使ってみようかな。	○思考ツールやワークシートなど、有効だと思う物を使えるように用意しておく。
振り返り 8分	○①「課題について考えたこと」、 ②「学習の取り組み方」について振り返りを書く。	◎自分の考えや取り組み方について、具体的に共有するように言葉掛けをする。 ・同じ課題でも別の視点から考えてみると新たな発見があった。	態度 グループ協議を通して課題を追究し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 【振り返りの記述】

	○次時はグループの残り二人の追究課題について協議することを伝える。	・色に注目するという意見を聞いて、王とメロスは青と赤で表現されていることに気付いた。	
--	-----------------------------------	--	--

(4) 評価

- ・グループ協議を通して課題を追究し、自分の考えを広げたり深めたりして、作品の魅力に迫ろうとしている。
- 【思考・判断・表現 行動観察、振り返りの記述】

6 実践を振り返って

(1) 指導の実際

① 「スタディ・ログの活用」について

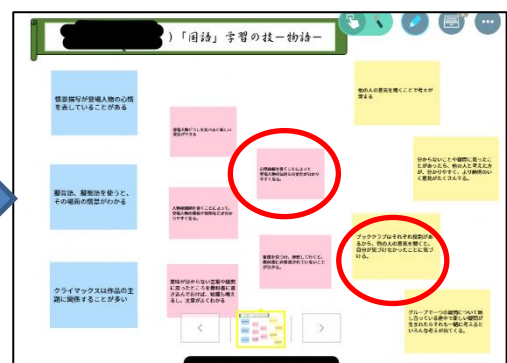
単元の学習に入る前に、昨年度作成した「わたしの国語学習の技－物語編」を見直し、2年生で身に付けてきた知識・技能を書き加えた（図1）。その上で、「学び方や思考ツールに関する技」、「考え方や読み方の知識に関する技」、「学び合いに関する技」の視点で「わたしの国語学習の技－物語編」を整理し、再構築した。その後、生徒はそれらを活用しながら、本文を読み進めた。さらに、「走れメロス」の学習内容や振り返りをスタディ・ログとして蓄積した。蓄積したログはクラス全体で共有し、必要に応じて仲間のログも見返すことができるようにした。学習中は、過去のスタディ・ログを見直し、活用する場面が随所で見られた。また、自分のログだけでなく、仲間のログから気付きを得て学習を進める生徒の姿も多く見られた。

単元の終末では、「走れメロス」の学習を通して学んだことを「わたしの国語学習の技－物語編」に書き加えた。（図2）クラスの全員が今後の学習に生かせる具体的な技を1つ以上記入し、ログを更新することができた。特に、「学び合いに関する技」について書き加えた生徒が多く、クラスの74%に及んだ。

図 1



図 2



「学び方や思考ツールに関する技」 …ピンク
「考え方や読み方の知識に関する技」 …水色
「学び合いに関する技」 …黄色

※ 赤丸部分が授業後新たに記入したもの。

【新たに増えた記述の例】

登場人物の違いを表にまとめることで、対比されている部分が分かりやすくなった。

三人称視点の語りの中に、急に「私」が出てきたら、登場人物の心の声がかかれている部分。

同じ問いを考えている人だけでなく、違う問いを考えている人の意見も聞くと新しい発見がある。

② 「学び合うスキルの育成」について

生徒に「語り合いの約束」を示し、1学期から継続的に指導を行った。また、校内研修を通して他教科の教員と「学び合うスキル」について共有し、学び合いの際に意識することや、学び合いに臨む態度について、共通理解しながら指導を進めた。継続的に指導を行ったことで、年度当初に比べ、グループ協議で発言することができる生徒が増えた。一方で、グループ協議が停滞するグループや、協議に参加しきれない生徒の姿も見られた。今回の授業では1グループの人数が4～5人と多く、全員に発言する機会がなかったことも原因の1つと考えられる。

(2) 研究のテーマに関わる評価

評価①－1「『初読の感想』とパフォーマンス課題の『批評文』を比較したときに、スタディ・ログの内容を基にした具体的な記述をしている」について、100%の生徒が達成することができた。

【実際の生徒の記述】

批評文

初読の感想

- ・メロスはもっとよく考えてから行動すべきだと思った。三日間では短すぎる。
- ・セリヌティウスがかわいそうだった。深夜に城に呼び出された上、急に人質にされるのは本当にかわいそう。
- ・暴君に少し共感するところがあった。一度裏切られたら、人を信じるのは難しくなると思う。

黄色線部は生徒が「学習を通して自分の考えが『強化』された」と考えた部分。

紫線部は生徒が「学習を通して新しい発見があった」と考えた部分。

「走れメロス」の魅力は、メロスとセリヌティウスの絆の描写だと思います。

物語の序盤、王城に乗り込もうとしたメロスは捕えられ、王と対面します。そこでメロスはすぐに処刑にかけられそうになりますが、残酷な暴君に信実を見せつけるため、セリヌティウスを人質にします。普通の人間であれば、我が身が急に人質にされることは受け入れ難いと思いますが、セリヌティウスはそれをあっさりと受け入れます。その理由は、メロスの心内語にヒントが隠されています。メロスが力尽きそうになるシーンで、「君は、いつでも私を信じた。私も君を、欺かなかった。」や、「一度だって、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことはなかった。」との記述があります。ここから、メロスとセリヌティウスはお互いの心から信じ合っている大親友で、急に人質にされることをも許してしまうような仲だという事がわかります。

また、この二人の関係は、暴君ディオニスとその側近たちの関係と対比されています。メロスがシリウスを訪れなかった2年の間に、ディオニスは急変し、「悪心を抱いている」と思い込んで人を殺すようになってしまいます。このディオニス周辺の淀んだ人間関係と、メロスとセリヌティウスの固く結ばれた信頼が、互いの存在を引き立てあっていると言えます。

評価①－2「授業後のアンケートで、『スタディ・ログを振り返り、今まで身に付けてきた読みの力を使って課題に取り組んだ』と答える生徒が90%以上になる」については、「できた」と回答する生徒が42.9%、「ややできた」と回答する生徒が52.4%、「あまりできなかった」と回答する生徒が4.8%という結果が得られた(図3)。

また「学習の振り返りを残したり、見返したりすることは、課題解決のために役立ちましたか?」という質問に対しては、クラスの全員が肯定的な回答をしていた(図4)ため、ログの蓄積と活用については、多くの生徒が学習に有効であると感じたようである。「国語学習の技―物語編」は学習中いつでも見返すことができるようにしていたが、活用を意図的に仕組む場

Q2 「国語の学習の技―物語編」を振り返り、自分が身に付けてきた「国語の技」を使って課題解決に取り組むことができましたか?

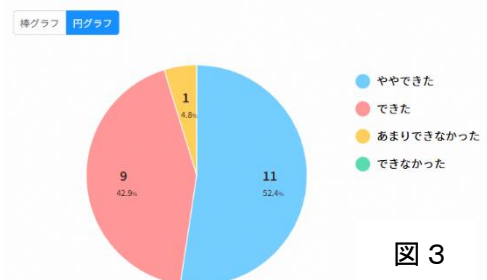


図3

Q3 学習の振り返りを残したり、見返したりすることは、課題解決のために役立ちましたか?

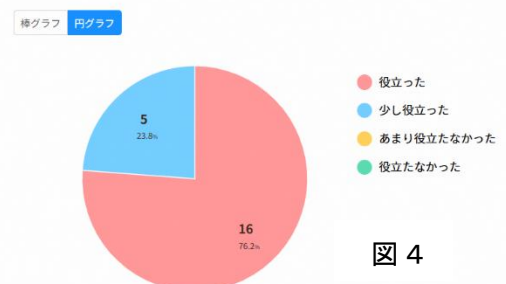


図4

面は少なかったため、このような結果になったと考えられる。

評価②－１「授業中、学習に苦手意識をもつ生徒が学び合う中で自分の意見や疑問を述べ、考えを深めようとしている。」については、概ね達成できたと考える。グループ協議では、話し合いが停滞するグループがあったり、中々発言できない生徒がいたりしたものの、個人で課題を追究する場面では、相手や内容を自分で選択しながら学び合う姿が全生徒に見られた。

評価②－２「授業後のアンケートで、『学び合いを通して自分の考えを広げたり深めたりできた』と答える生徒が90%以上になる」については、100%の生徒が肯定的な回答をした（図5）。学び合いの内容及び相手について自己決定する場面があったことや、学び合うスキルを継続的に指導したことが効果的だったと考えられる。

また、授業後のアンケートでは、「作品を読み取っていく上で役に立ったもの」として、約85%の生徒が「仲間の振り返り」を選択している（図6）。授業中は、仲間の振り返りの内容を基に、学び合う相手を決定したり、グループ協議の場面で仲間が振り返りに記述した内容を話題にしたりする姿が学習の各場面で見られた。このことから、仲間とスタディ・ログを共有し、お互いの学習内容や進捗を把握し合うことは非常に有効であると感じた。

Q4 授業中での学び合い（グループ協議や話し合い）を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができましたか？

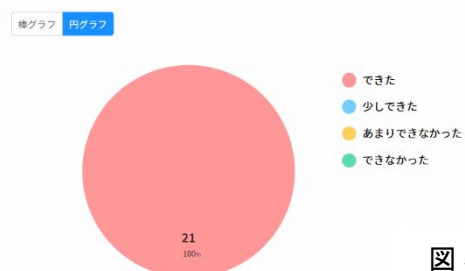
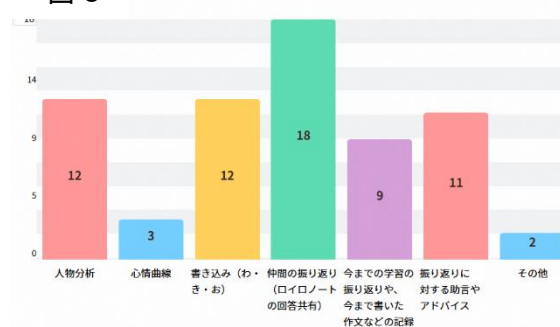


図5

図6



(3) 今後の課題

生徒自身が身に付けてきた読みの技をスタディ・ログに蓄積し、活用・共有することは、主体的に課題解決に向かう生徒の姿を実現するにあたって大変効果的だった。また、生徒が学習の中で学び合う良さや、学び合いをとおした考えの広がりや深まりを実感する場面があることで、学び合うスキルや学び合う意欲が向上していくことを実感した。今回の実践を継続していくためには、教員の「生徒を信じて委ねる覚悟」が必要不可欠である。そのためには、生徒全員が安心して学習に臨める環境がなくてはならない。引き続き、学び合うスキルの育成を図り、その中で互いを尊重する態度を養ってきたい。

また、生徒自身が課題や取り組み方を自己決定することは、生徒の意欲を引き出すことには有効であったものの、個々の学びの深まり方には差異があることから、理解度や習熟度に差が生じた場合の指導方法や具体的な手立てについて課題を残した。こうした課題を解決するためには、生徒一人一人の学習に対する教師の形成的評価が極めて重要

である。教師がどこまでを指導し、形成的評価をどのように行くと有効なのかについて、さらに模索していきたい。

<引用・参考文献>

文部科学省.『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』.株式会社東洋出版社.2018
下越教育事務所学校支援第2課.「Teachers ‘2023+ 第3号」.2024.